



OHH 目標 100万個!

オペレーションホリデーホープ
メトロの教会学校のクリスマスメ
ッセージの週に参加した子ども
全員にプレゼントを渡します。



私は、神が今なされていることに驚く
とともに、それを実現するよう鼓舞
され、駆り立てられています。

非常に多くの子どもたちが、希望も
未来もなく、さらに、他の誰かがこ
の現状を見て、知って、気にかけて
くれるなど考えたこともないまま
霊的暗闇の中で生きています。福音
が彼らの世界に入り、聖霊が子ども

自身の心に希望を植え付けると、子どもた
ちは、その光を自分の家や地域にももたらします。

長年メトロ・ワールド・チャイルドと共に歩んでくださっ
ているあなたのような友人たちのおかげで、私たちが支援する
子どもたちは奉仕者としても成長しています。この働きは単
発的なものではありません。子どもたちは毎週、継続して聖
書の教えを聞いて、周囲の劣悪な世界とは異なる考え方を育
んでいます。彼らには希望があるのです。

私たちは、今年のクリスマスに100万人の子どもに神の愛の
メッセージを伝え、プレゼントを渡すことを目指していま
す。しかし、ニューヨークの子どもたちをバスで迎えに行く
時も、ケニアの子どもたちの学校に行く時も、フィリピン
の墓地にトラックで出向く時も、私たちがいつも目にするの
は、ひとつのことです。子どもたちは皆、メトロのチームが
多くの中の一人ではなく、自分のために来てくれたと感じて
いるのです。自分は愛されている特別な存在だと感じていま
す。家庭や学校での出来事をスタッフに話したいのです。

神がなされていることを陰で支える役割を担ってくださり、
ありがとうございます。私たちは共に働きを進めているので
す。神の祝福がありますように。 ビル・ウィルソン

ケニアの 新年度就学支援

ケニアの新年度は毎年1月に始まります。ケニアでは、スポンサ
ーがついて学校に通うということは、文字通り子どもの命を救う
ことに直結します。メトロのサポートで、給食を必ず食べること
ができるからです。その日の食べ物にも事欠く生活をしている
人々にとっては、とても大きな助けです。

そして、学校に行くことができれば、授業の一環としてメトロの
教会学校に参加し、イエス・キリストの福音を聞くことができ、
人生に希望を見出すことができます。また、メトロの教えと給食
によって集中力が高まり、確実に成績が上がります。すると、将来
への希望も現実的になります。

しかし、新年度は家族にとって大きなハードルです。通学するた
めには制服が必要ですが、どんどん成長する子どもの制服を買い
替えることや学用品などの消耗品を購入するために、現金が必要
になるからです。

兄弟のおさがりを着たり、午前と午後の授業で交代で同じ制服を
着まわして登校するなど、様々な工夫をして学校に通っています。
そのため、ボロボロの制服やかばん、穴が空いて足の出た靴で通
学する子どももたくさんいます。

少しの支援でも、親にとっては大きな助けとなります。子どもに
とっても新品の学用品を持ち、新しい制服を着て通学できるのは、
どれほど誇らしい気持ちでしょうか。どうぞご支援をご検討くだ
さい。

OHH 締切
11月25日(月)

ケニア就学支援締切
11月27日(水)



常時スポンサー募集中!

お申込はこちらから⇒

<https://metroworldchild.jp/apply-for-sponsor/>

今月の引き落とし日!

11月27日(水)です。口座をご確認ください!

今月号の目次

P2~3...ビル師からのメッセージ

P4...日本事務所から大切なお知らせ

ビル師からのメッセージ

10月4日金曜日に計画実行

ハン兄の母親のことについて早くお知らせしたかったのですが、今になってしまいました。答えは、ほとんどの場合、簡単には得られません。特にこの数年間はそうです。

10月8日火曜日の朝、ガザでの戦争は1年を迎えました。ハン兄とその家族を、普通の生活が送れるようにエリコの少し南にあるヨルダン川西岸地区に移住させたことをお伝えしたいと思います。ハン兄の姉妹の1人は今年初めにトラックにひかれ、数週間前には母親が食料品店でベビーフードを買おうとしてハマスに撃たれました。前回、私にはまだ答えはありませんでした。ハン兄と亡くなった彼の母親のことを心配していましたが、何もできない無力感を感じていました。皆様も同じでしょう。

10月1日にイスラエル国防軍の指揮官から10月4日金曜日の正午に計画を実行すると電話がありました。ガザを離れて以来、母親はガザに戻りたいと言っていました。彼女はいつも、自分を娘のメアリーと今年初めに殺されたもう一人のボランティアのお母さんの隣に埋葬してほしいとハン兄に言っていました。ハン兄が母親の願いを叶えるために最善を尽くすだろうと思っていました。彼は「母をガザに連れ戻したい」と言い続けていましたから。

私は、彼の母親を棺に入れ、北部の検問から遺体を運び、埋葬する方法がないか考えていました。しかし、現状ではそれを実現する方法がないこともわかっていました。その時、私はイスラエル国防軍の指揮官のことを思い出しました。私がシリアでスナイパーに撃たれた時に助けてくれた人で、昨年真夜中に最後のスタッフ会議をした時も私のガザ行きを可能にしてくれた人です。そこで私はメアリーを見つけたのです。

簡単な依頼ではないことは承知していましたが、彼の部下の何人かがハン兄と同行して、母親を埋葬するわずかな時間を与えてくれるかもしれません。私は、とにかく彼に電話することにしました。最善を尽くさなければならないと感じたのです。私たちは、不可能を可能にする神を信じて

いるのですから。

私は電話で指揮官と話しましたが、彼は数日後にレバノンに派遣されることになっていたため、自分の部下に「とんでもない行動」を頼むことはできないだろうと思っていました。しかし彼は、イースターにメトロの日曜学校と子どもたちの食事の警備に当たった7人のパトロール隊員のうち何人かが、ハン兄が祈った様子や、死んだパレスチナ人の少年が生き返ったこと、その朝800人のパレスチナ人がキリストを受け入れた様子を見ていたので、喜んで協力してくれるかもしれないと言ってくれました。(詳細は、メトロジャパンのHPから5月号をご覧ください)

母の願いを叶えるために

彼は、「ハン兄が母親の棺を運んで北部の検問で彼らに合流して、母親を検問を越えて運び入れて埋葬できるかもしれない。私にできるのは、彼らに頼むことだけだ」と言ってくれました。私は感謝してもしきれませんでした。

2日も経たないうちに、イースターの日曜日に現場にいた3人のイスラエル国防軍の兵士がハン兄の母親のことを思い出して、「母親がハン兄から食料を受け取って子どもたちに配る様子を見ていたので、ハン兄を助けられるのは光栄だ」と言ってきたそうです。そして、ガザ時間の10月4日金曜日を迎えました。偶然にも、その日は私の誕生日でした。私は現地の様子を知るすべもありませんでしたが、アンドリュー兄は、食料品店の店主に配達トラックの手配を頼み、ハン兄と妹のネマ(ハン兄の最後の家族)と棺桶を乗せました。彼らはガザ地区の北門まで運転して行きました。10月4日の午後1時近くに、イスラエル軍がトラックの許可証を受理し、3人の兵士が私服に着替え、棺の載せてあるトラックの荷台に飛び乗り、何かあった場合に備えて銃を構えて5キロ近く走行しました。

ハン兄と妹は、とても感謝していました。彼らは母親をガザに連れて帰りたいと思ったのです。母親はガザの日曜学校での彼の最も忠実な助け手でした。ハン兄は、パレスチナ人の友だちに、トラックが到着するまでに墓を掘って準備しておくように頼んでいました。彼らは、日曜学校をしていた空き地の隣に墓を準備しました。そこはハン兄のもう一人の妹、そして殺された日曜学校のスタッフ、そしてメアリーが埋葬されている場所です。周囲は爆撃された建物と瓦礫に囲まれていました。友だちはメアリーのすぐ隣に墓を掘りました。

ハン兄とトラックが到着した時、友だちもそこで待ちました。彼らはハン兄がトラックの荷台から棺を降ろすのを手伝い、非常に丁寧に地面に降ろしました。

アンドリュー兄は、ハン兄たちが検問を通過する前に北門で彼らに会い、ハン兄にテープで留めた箱を手渡しました。彼は「お母さんを埋葬する準備ができるまで開けないで」と伝えました。アンドリュー兄は、ハン兄のお母さん



とのことを思い返し、自分なりの方法で彼女に感謝を伝えたいと思ったのです。

ハン兄のお母さんは、アラビア語で書かれた新約聖書を持っていて、それを毎日読んでいました。彼はそれを箱に入れたのです。そしてもう一つは、爆破された病院でメアリーが亡くなる前に彼女を暖めるために母親が使っていた毛布でした。「お母さんを暖めるために棺の中に入れておいて」とアンドリュー兄はハン兄に伝えました。

アンドリュー兄は、私の「この子だれの子」の初版本の古いコピーも持っていきました。それは、私が12年前に彼らを訓練して以来、彼らが何度も読んだ本でした。彼の母親も、自分が参加している働きのことを理解しようと繰り返し読んでいました。そして、彼女は日曜学校に参加できることにとても感謝していました。

アンドリュー兄は、私が日曜学校に通う少年たちを訓練するためにテルアビブに行ったとき、ハン兄の母親がブラウニーを作ってハン兄に持たせてくれたことを覚えていました。私はすっかり忘れていましたが、私がブラウニーが大好きなのを知っていたので、ハン兄の母親がいつもブラウニーを準備してくれていたことを思い出させてくれました。アンドリュー兄は、ブラウニーを買ってその箱に入れました。彼はハン兄に母親の手にブラウニーを渡してもらいたかったのです。

共に歌ったアメイジング・グレイス

ハン兄が箱を開けて、イスラエル国防軍にそれらのことをすべて説明すると、全員が泣いていました。彼らはできるだけ早くそこから立ち去らなければならないことを知っており、墓のそばに長く留まることはできませんでした。ハン兄は、棺の蓋をそっと閉め、墓の穴に下ろしました。イスラエル国防軍の兵士たちは、シャベルで爆破された場所から持ってきた土と瓦礫を棺の上にかぶせました。ハン兄は「みんなでアメイジング・グレイスを歌ってもいい?」と尋ねました。ハン兄の友だちは、彼が日曜学校の後にいつもアメイジング・グレイスを歌っていたこと、そして彼の母親が子どもたちの食事の準備をするときにいつも歌っていたことを知っていました。

イスラエル国防軍の兵士たちもどういいうわけかその歌を知っていて、彼らと一緒に歌ったのです。「アメイジング・グレイス!」驚くばかりの恵み! 彼らは皆、しばらくそこに立っていました。ハン兄は乗ってきたトラックから小さな十字架を取り出し、墓の上に立てて小さなバラを飾りました。皆が頭を下げて祈り、背後では銃声が響き渡っていました。もう帰らなければならない時間です。

全員がトラックに戻り、イスラエル国防軍の兵士とネマは手を振って墓に別れを告げていました。彼らは北門まで車で戻ると、翌日任務予定の数人の兵士が門で彼らを出迎え、アンドリュー兄もそこで待っていました。彼はハン兄を抱きしめて、「箱の中のものをお母さんが喜んでくれるといいな」と言って二人はただ泣きました。

アンドリュー兄は、そのトラックを運転して食料品店まで戻りました。ハン兄は、門の近くにいた男性を見つけてエリコに連れて帰ってもらえるか尋ねました。誰もいなくなり、門は何事もなかったかのように再び閉まりました。

戦争によって、戦争の中で人生は常に変えられます。その場所で流された血の中で、イースターの日曜日に甦った死んだ少年、ハン兄の母親がきちんと埋葬されるように彼らを護衛してそこへ行くことを志願したイスラエル国防軍のボランティア、そして私が忘れていたブラウニーとメアリーの毛布のことを思い出してくれたアンドリュー兄。

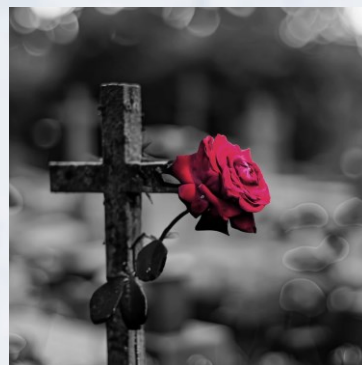
他に何を言えばいいのかわかりません…私は人生で多くの死を多くの痛みをもって見てきましたし、皆さんの中にも同じような方がいると思います。

アンドリュー兄は、「この子だれの子」を読んだ時に覚えたことの一つを話してくれました。それは「使命感は感情より強くなければならない」ということです。

アフメド兄が殺され、ハン兄が彼の代わりに務め始めた時、彼らは自分たちの仕事はまだ終わっていないことをわかっていました。そしてハン兄の母親の仕事もまだ終わっていないことを。彼女は最後まで忠実でした。彼女は市場でベビーフードを買って難民キャンプに持っていかうとして亡くなりました。

兵士たちはレバノンへ、アンドリュー兄は食料品店へ戻り、ハン兄の友人たちはシャベルを持って墓場を去りましたが、小さな十字架と、神を愛し、イエスを愛した4人の小さな墓はそこに残っています。彼らはキリストへ導いてくれた人として、多くの子どもたちに記憶されるでしょう。そして、年老いた牧師は、彼らの物語をただ皆さんに伝えたかったのです。

私が説教を終えた後によく歌っていた昔の歌のように、「ああ、イエスの血が私を清める…ああ、私のために流されたイエスの血…私の命を救った何という犠牲、そうです、その血は今でも私の勝利です…」そしてそれは今も私のものであり、あなたのものでもあります。



私は今も説教をしています。私が長年愛し、共に奉仕してきた人々の墓前に共にいられたらよかったのにと思いながら。彼らは自分たちのために命を捧げた方のために生きていました。

メトロの日曜学校があった場所の側の瓦礫の中にまだ小さな十字架が立っています。十字架はいつも孤独に立っています。今夜また十字架について説教します。いつもそうしてきました…これからもずっと…。

ビル・ウィルソン

日本事務所からの重要なお知らせとお願い

注意!

偽サイトにご注意を!

ビル師の偽のSNSがたくさん発生しています。騙されて献金を送金されないように、くれぐれもご注意ください。

ビル先生のFacebookは以下の一つだけです。

<https://www.facebook.com/PastorBillWilson>

ビル先生が、直接献金を依頼することはありません。メッセージやその他の方法で、個人的に連絡することや友達申請することはありません。友達リクエストを受け取った場合は、その偽アカウントをFacebookに報告し、ブロックしてください。

メトロの働きやビル先生へのご支援は、必ず日本事務所を通してお送りください。

！ スポンサー募集中!

メトロの働きは各国で急激に拡大し、サポートの必要な子どもの数は、飛躍的に増えています。新規スポンサーを常時募集していますので、よろしくお願いたします。

コロナや戦争で、貧困地域の状況は悪化し続けており、世界中の物価は急激に上昇しています。メトロの活動している地域では、以前から食事をまともに食べることができない子どもがたくさんいましたが、今はさらに深刻な状況です。私たちは、一人でも多くの子どもにスポンサーを見つけようと手を尽くしています。どうぞ、身近な方々にメトロをご紹介ください。

メトロ紹介&申込サイト⇒

<https://metroworldchild.jp/metrogenerallp/>



現在開催中のキャンペーン!

現在行っているキャンペーンは、以下の通りです。同封のお申込用紙をご覧ください。

- ・アメリカのクリスマスプレゼント
11月25日(月)締切
- ・OHH 11月25日(月)締切
- ・ケニアの就学支援 11月27日(水)締切

また、ご支援いただいています子どもの誕生日の前月には、お知らせの手紙を同封しますので、必ず開封して中をご確認ください。ご自身の状況に合わせてプレゼントをお考えいただければ幸いです。

口座引落手続きをされている方は、翌月のお引き落としに加算することもできます。

お引落日は、お申し込み日の翌月です。



日本事務所よりごあいさつ!

気持ちの良い季節が続いていますが秋を楽しんでいらっしゃいますでしょうか?

メトロの教会学校の拡大の勢いは加速し、ついに今年のクリスマスは、100万人分のプレゼントを準備することになりました。どうぞ、クリスマスのメッセージが語られる週にメトロに参加したすべての子どもたちにプレゼントを渡すことができるようにお祈りください。

フィリピンでは、洪水の後に大規模な火災が起こり、2千世帯が焼け出され、その後また台風による大雨の被害で大変な状況となっています。焼けた自宅のあった場所に簡易の雨除けをして住み続けているため、性被害に遭う子どもたちも出ています。お祈りとご支援をお願いします。

教会では、クリスマスの準備も始まる時期です。皆様にとりましても、主の祝福と勝利の表わされる日々となりますようお祈りします。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんたい えいじ)



メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061

東京都中央区銀座5-14-6

橋ビルII 7階 TFC内

電話 03-6264-7370 (松山事務所 089-992-9020)

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

URL <https://metroworldchild.jp/>



すべてのお振り込みは、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン